

教えの庭から

6月28日に、千葉県八街市の市道で、下校中の小学生の列に飲酒運転の大型トラックが突っ込み、小学生2人が死亡、3人が重傷を負いました。またしても飲酒運転による死亡事故です。残された親御さんの深い悲嘆は、いかばかりかと思えます。

21年前、私の娘・真理子(鳥取大3年生、20歳)も飲酒運転の車に正面衝突されて、理不尽に突然死にしました。私たち家族は、悲しさ・無念さでつぶされそうでしたが、この理不尽な無念さを胸にいただきながら、今も生活しています。

この悲惨な事故後に本紙のこだま欄には、飲酒運転撲滅に関して「『飲酒運転は絶対にしてはいけない』と社会への啓発することが

飲酒運転の根絶を

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

根絶の基盤である」、また「アルコールインテーク(飲酒をして運転席に座っても、エンジンがかからない車)をメーカーが開発してほしい」との二つの投稿がありました。アルコール

挿絵 平尾忠郷



「アルコールインテーク(飲酒をして運転席に座っても、エンジンがかからない車)をメーカーが開発してほしい」との二つの投稿がありました。アルコール

り疲労困憊しました。しかし、この理不尽な無念さを胸にいただきながら私たちは、「全国交通遺族の会」の人たちと共に、二度と交通犯罪を起こさないようにとの願いをこめて、二つの方向で社会的活動を始めました。

一つは、署名活動により、法の整備、交通手段の安全化などを関係当局に呼び掛けました。これは、国会で刑法改正になり、2001年に「危険運転致死傷罪」が新設されました。この後、かなり死亡事故は減りましたが、まだ事故が繰り返されています。

二つには、二度と理不尽な死は、起こしてはならない」と一般の人々に「生命」といのちのメッセージ展(いのちのメッセージ展)という展示会を開催し呼び掛けました。これは、メッセジャール(犠牲者の等身大人型パネル)が主役のアート展で、私たちは08年9月に「生

命のメッセージ展 in 出雲」でメッセジャール131命を展示しました。3日間の開催期間に約4千人も人が訪れてくれました。

その後、飲酒運転の防止と命の大切さ・尊さを、特に若い将来のある人たちに話すようになりました。ここまでに至るまでに、本

に多くの方々にお世話になりました。現在、島根県警、島根被害者サポートセンターからの依頼で、「命の授業」を中学校、高校、大学で実施しています。

飲酒運転事故をなくす最大のことは、運転者の運転する心構えだと思います。

「自分は大丈夫」という加害者にならない」という決意をして、安全運転を心がけてください。「酒を飲んだら車を運転しない。車を運転するのなら酒を飲まない」を守ってください。